

【事後報告①】

倒木の恐れのある枯木の伐採について

県立図書館南西の園路の北側斜面に、幹がキノコに覆われている木を発見したため、令和6年12月3日に樹木医と現地確認しました。樹木医の診断によると、幹及び下枝に腐朽・空洞等が存在し、園路側に傾いていることから、暴風雨・強風等により幹折れ・枝折れし、園路上に落下する危険があると判断されました。

合意形成ルールの「緊急かつ危険な場合」に該当することから、12月20日に伐採処理しました。

<樹木の状況>



<位置図>



【事後報告②】

松枯れのクロマツ伐採について

西芝生広場の北にあるクロマツが枯れており、樹木医による調査の結果、松くい虫※の侵入による松枯れと診断されました。このまま放置した場合、周辺に松枯れが拡散する恐れがあり、合意形成ルールの「緊急かつ危険な場合」に該当することから、令和7年3月3日に伐採・燻蒸処理しました。

※松くい虫被害発生メカニズム

「マツノザイセンチュウ」という体長1mmにも満たない線虫（通称：松くい虫）が、松の樹体内に入ることによって発生。その線虫を松から松へ運ぶのが「マツノマダラカミキリ」というカミキリ虫です。

<樹木の状況>



<位置図>

